第3回ワーキンググループ会議

【活動WG】 議事要旨

日時：平成28年9月26日（月）　14：00 ～15：30
場所：本庁舎2階　21会議室
出席：委　員3名、事務局4名、北　大4名

議題　地域活動と共有空間をキーワードにしたアイデア・事例について

■　**前回の振返りと今後の予定について**

今後のスケジュール

・ 基本計画はWGでアイデアを出し、建設検討委員会でWGの意見を発展させる形で進めていく。今年度は施設でどのような活動がしたいかといった、施設活用のアイデアを話し合うことを予定している。来年度は実施したい活動の実現可能性も考慮しながら、ハードの規模、機能などを話し合っていきたい。活動部会が議論する範囲は幅広い。鑑賞や窓口の他のWGとも連携を図っていきたい。

配布資料について

・ 事例集は、今後WGでアイデアを出してもらうために事務局で参考になりそうな先進事例をまとめたものである。最終的な目標として苫小牧版アイデア集を作りたいと考えている。キーワードは基本構想のなかで話し合われたものであり、各会議ではキーワードに基づいた話し合いを進めていく。
・ 穴埋めシートは、キーワードごとにアイデアをまとめるためのシートである。視覚的に議論の不足などを確認する役割のものとして認識してほしい。

前回のフリーディスカッションの振返り

・ 委員から、アーティストバンクの利用や、現在の苫小牧市での若手音楽家の活動状況を紹介いただいた。ホワイエや共用空間の利用のアイデアにつながるのではないか。
・ 委員から、子どもが雨の日遊べる場所の提供ということで、九州国立博物館の取組を紹介いただいた。余暇環境のアイデアにつながるものとしている。
・ 委員から、ついで利用として、ふらっと立ち寄った時に見ることができるイベントの提案があり、苫小牧で活動している作家の状況や、ABCクッキングスクールなど紹介いただいた。
・ 以前に委員から地域内の活動団体を一度に知ることが出来る「サークル紹介カード」を紹介いただいた。窓口とも関係する情報発信のキーワードで話し合っていきたい。

・ 今回は、「地域活動」と「共用空間」をキーワードとして、市民の意見を取り入れた地域に根付いた活動を考えていきたい。

前回議事録の誤記について

・ 前回の議事録で「知り合ったばかりの若手音楽家とセッションを行う」とあるが、「昔からの気の合った仲間と一緒に音楽活動をする」という意図で発言したものであり、修正をお願いしたい。

■ 共用空間の使い方に関する意見

プロとアマチュアの棲分けをする

・ アーティストバンクを利用し、若い音楽家同士のつながりをつくり共用空間などで披露する、と書かれているが、アーティストバンクは制度であり、音楽家とイベントプランナーとの橋渡し的役割のものである。音楽家同士を出会わせる目的で利用するのは違うのではないか。
・ 「アーティスト」という言葉は、趣味で音楽をやっているアマチュアにとっては、敷居が高いのではないかと感じる。プロとアマチュアを一緒にすることで、アマチュアが参加しにくくなってしまうのは良くないのではないか。
・ アーティストバンクに登録している人で、市民ホールで音楽を披露できるイベントを設けたり、プロの作家がホールの一室で展示会を行ったりといった活動とは別に、趣味で描いた絵などを持ち込んでもらい、展示できるスペースを設けるという風にプロとアマチュアで施設利用の仕方を分けた方が良いのではないか。
・ 市民ホールとしては、アートへの敷居は取り払っていくべきだが、プロとアマチュアの活動を共用空間と専門性の高い部屋で分けることでうまく棲み分けをしていくことが考えられる。

子どもや市民から地域の情報を発信する

・ 若い人や他地域の人の情報発信としては、SNS の利用が有効なのでは。一方で、小学生などの子どもや市民の人への情報発信としては、子ども達が市内で行ったり知ったりした活動を紙にまとめて、市民ホールのフリースペースに展示することで、子どもの親も見に来るなど注目してもらえるのではないか。
・ 緑が丘公園の展望台では、子ども達の絵を自由に持ち込んでもらい、展示する活動を行っている。市民が持ち寄ったものを、ある期間で事務局が張り替えるなどして管理している。
・ 私が働いている場所でも子ども達の絵の展示を行っており、一番簡単な展示の方法である。しかし、目的がないと市民は目を向けないのではないか。
・ プロの音楽会に合わせて展示を行うなど、企画が必要である。

- 今ある市民会館・文化会館などの施設間において連携を考えたことは無いと思う。何でもいいからもって来てもらうのではなく、例えば都市と田舎など何と何を結び付けるか、目的が必要。そして、目的をもった企画をするコーディネーターの役割を担う人が必要だと感じる。
- 知り合いが地方紙の販売店（配達）を経営しながら、子供記者を集めてミニコミ紙を作成し、地域づくり活動を行っている。販売店の強みを利用し、新聞を媒体として情報発信しているが、例えば公共施設にも、手作り新聞が掲示される仕組みがあれば簡単に情報発信できるのではないかと思う。
- 中央図書館では学校と連携して、子供たちの絵などを展示している。新聞の発表などは学校内に留まっているのでは。図書館だからできないなど、今ある展示場所、活動場所の制限を外して考えた方が良いのかもしれない。
- 今までの制限を超えたことが出来るようになるのも複合施設のメリットである。たとえば、音楽家の演奏会に合わせて子どもたちがその音楽家の生い立ちなどを調べて情報発信するなどすれば、音楽に対して親しみをもてるようになる。仕組みがあれば、ハードルが低くて面白いことが出来るのではないかと思う。
- 色々な人が参加できることが重要なのではないかと感じる。例えば、写真で苫小牧の自慢できる場所や物を応募してもらい展示するなどができるのではないか。

<u>それぞれの役割を担う人を結びつける</u>

- 音楽をやっていて大変なことは、何を発信するかという点。チラシのレイアウトや載せる情報など、素人では悩んでしまう事もプロのデザインではすぐにできてしまう。デザインがすぐにできる人がいることが事業を行う上で力になる。
- プロアマ問わず、演奏会を開きたい音楽家と、デザインが好きな人を結びつけるマッチングがあってもいいのかもしれない。アーティストバンクは発表者側のコラボレーションだと思っていたが、例えば、表に出る人と広報など裏方の仕事の人をアーティストバンクなどの仕組みを利用し結びつけることが出来るのも、こういった複合施設ならではだと感じる。
- 参考資料を見ていると、ボランティアが担う役割の幅広さに驚いた。例えば、PMF のボランティアがいるが、年々質が高くなってきており、市民に向けて講習会なども開いてはいるが、参加するためにどこでどうすればいいか、仕組みがないので、演奏会の時に集まってもらうくらいしかやってもらうことが無い。役割をきちんと定め、仕組みをつくれば、やってくれる人が出てくると思う。

■　地域の運営を次世代に受け継ぐ

<u>町内会の世代交代</u>

- 前回も述べたが、パン作りなどの料理教室の開催や、市内に作家がいるので、展示や販売を行いたい。また、地域の運営に関わる勉強会をやりたいと考えている。
- 私は町内会の婦人部に所属しているが、役員が年上で 60 代 70 代が主に活動をしており、若い人の教育をしないので後が続いていかない。また、若い人も敷居が高くて参加できない。30 代 40 代の興味のある人に対して、民生委員の補助として入るなど、地域活動の勉強会を開きたい。例えば、市民後見人事前説明会は、独居高齢者の財産を管理していく人を町内会に欲しいとのことで市が勉強会を開いている。
- 町内会の現状として、若い人に世代交代していくことが必要である。ただ、若い人は仕事と両立していくのは難しいというのもあると思う。
- 町内会の活動に若い人が参加しないのは、活動の内容がよく分からないというのもあるかもしれない。町内だけでなく、他の地区の人ともつながりを持てれば、若い人でも同じような状況の人に出会えるかもしれない。町内会の中に留まらず、町内会を楽しいと感じられる仕組みをつくることが必要なのでは。

<u>町内に留まらず地域の活動を吸い上げ、披露する仕組みをつくる</u>

- 地区にも異なるが、毎年、町内会単位で芸術祭のようなものを開催している。町内会館で行っているが、それ以外の地域の人はどこで何をしているのか分からない状況であると思う。市内で活動をやっている人は沢山いるが、開催者側から声を掛けないと市民の目に触れる機会がない。
- 現在、市民文化祭は年に一回開催しているが、もっと日常的に開催できる方がいいのかもしれない。
- 町内会の中には、新旧住民が混在しているため、何も知らない中で信頼関係は築けず、市民後見人などの担い手となることも難しいと感じる。文化活動を通じて両者が信頼関係を築くきっかけになるかもしれない。
- 地域でどんなことをしているのか、研修会を開いて次世代につなげていくことが必要だと思う。
- 調査で行っている気仙沼ではイベントの後に反省会を開いており、その中で地域全体の話をしており、上の世代からの叱咤激励がある。イベントの中で社会的な交流も行っている。
- 婦人会で年配の方に料理教室を開いてほしいと頼んだことがあったが、こんな家庭料理を人に教えられないと言われてしまった。
- 過去には苫小牧漁業組合女性部が浜のお母さんの料理教室を開いて魚のさばき方を教えていたことがあった。
- 例えば花嫁修業として習うようなことを、地域の経験豊富な方々に教わることができるなど、地域内でお互いが煩わしくなく交流できる方法があると良い。
- 過去にはパンの講座やっていたが、今はレシピを基に仲間内で料理教室をやっている。

植苗ファミリーセンターを利用しており、11月の植苗ファミリーセンターまつりでは、パンをふるまったりしている。現在参加しているのは、20人くらいのサークルで、小さい子のお母さんが多い。

- 例えば陶芸などの作品は、皆で集まって大規模に展示を行うことが想定されるが、料理で集まって交流することを想定すると、様々な仕掛けが考えられる。
- 普段の教室などでは、アンパンなどの家庭的なパンをつくっているが、イベントなどでは、アップルパイなど人にあげられる、特別感のあるパンをつくりたい。
- 他の部会で話合われていたことで、クリスマスのイベントを子どもが装飾し、市民サークルでゴスペルを歌う、というアイデアがあったが、そうしたイベントに料理も組み込んでいけるのではないか。
- パーティ用の料理を作ってみるなど、普段は作れないものをハレの場で行うことがポイントになるかもしれない。

■　共用空間の考え方について

<u>活動と空間のイメージは同時に考えることもできる</u>

- 市民会館にはオーケストラピットが無く、オペラなどが出来ない。ニュージーランドでは、小さい町でもきちんとしたホールを持っており、オーケストラピットも兼ね備えている。楽しんで何かをしたいと思った時に、活動できる基本的な施設の条件がないのは問題だと思う。
- 今回の議論では、実施したい活動を考えて活動に見合った施設を考えるという順序をとっているが、先に施設を考えて、その場で出来ることを考えることもありえる。両方向的に考えていくことが今後必要になってくる。
- 特に共用空間の議論は、空間のイメージが無いと活動を考えられないと思う。北上市の文化交流センターでは、スタジオや練習室がガラスのボックスになっており、防音だが視覚的につながっている。ここは少人数での活動がお互いを確認し合いながら気兼ねなく行える空間になっている。こうした空間のイメージも参考に、行いたい活動と必要な空間をセットで考えていただくといいのではないか。

<u>空間の使い方について</u>

- 共用の考え方の問題だが、ひとつの大きな空間を共有するだけでなく、プロでもアマチュアでも自由に発表できる棲み分けなど、場所を分けていくことは必要だと思う。
- 共用イコールまったく同じ空間にいることではない。動くものと動かないもの、静かな物と音の出る者、それぞれをうまく分けて相性のいい活動同士をまとめあげる提案してくれる人が必要だと思う。
- 活動とハードのセットという点では、ABCクッキングスクールは全面ガラス張りで、見ていて面白そうと感じる。

・ アオーレ長岡では練習所のドアを閉めることが出来るにも関わらず、扉を開けたままにしている。見せることが一番宣伝になる。

■　欠席委員からの意見

地域の子ども達に町内の魅力を壁新聞形式で紹介してもらう

地元アイスホッケーチームを市民にアピールする為、サポーターと選手が交流できるイベントや特設ブースを設ける

文化団体の協力を得てホールを訪れた市民にいろいろな体験をしてもらう

・ 別々の団体でやるよりも、一度に体験できる場所を設定してあげることが必要ではないか。
・ 例えばお見合いパーティの企画として男女で華道をするなど、敷居が高く感じるような文化活動を、自分の関心のあるイベントの中に組み込むなど、機会が必要ではないか。

市内で活動するアーティストにロビーなどの共用部分を自由な発想で装飾してもらう

・ 茅野市民館の活動では、市民が運営している NPO 法人に気軽に参加し、自分たちで活動行っている。何か仕組みがあれば、自由に市民が主体的になって活動を行うことも出来るかもしれない。
・ 美術博物館では、野外博物館と称し野外で地元のアーティスト、札幌のアーティストが集まって展示を行った。しかし、美術館という名前に敷居の高さを感じているようで、市民の展示が進まない状態だった。市民ホールに広く、象徴的な空間があれば、こうした展示会も行えるのではないか。

■　子どもが芸術に触れるサポートをする

他市町村の事例と苫小牧市の現状

・ 可児市文化創造センターで実施されている中高生の芸術鑑賞を助ける「あしながおじさんプロジェクト」は、是非やっていただきたい。苫小牧に音楽芸術に関心の無い方が多いと感じる。20 代前半で結婚、30 代で家を買うなどしてお金がない人が多いと思われる。子供劇場も人数が減少しており、お金を払わなくても、ロビーで見られる、ガラス張りで見られるということがきっかけになって、お金を払ってでも見に行く人が増えればいいと思う。
・ 上磯町の吹奏楽が強く、中学生が全国大会にいっている。上磯町のホールではホール練習を無料にしているのが一因ではないか。ピアノ、マリンバなど移動が大変な楽器

をホールで保管している。市内のお金のある学校はホール練習が年に何回かできるが、人数の少ない学校ではホール練習が年１回程度しかできない。音楽家が育つ環境があまり整っていないと感じる。

<u>施設の方針</u>

- 文化会館と市民会館の視点が違う。文化会館は教育的な観点、市民会館は有料で行うという観点であり、一緒になるとすれば、どこに視点をおくかが重要。教育的な観点で見れば、義務教育の間は楽器やホールを無料で利用できるようにするなどをしていくことが必要ではないか。
- 義務教育に特化するのは、制度的にやりやすい。ホールを建設することで、多額の借金をする。将来の負担を軽減することが次世代への役割ではないか。
- 演奏団体は大抵赤字で演奏会を開いている。施設利用費が問題になっている。文化団体に加盟することで、文化会館の利用が無料になることでいくらかの赤字で済んでいるのが現状である。備品の利用経費が高く、バレエなど物品の多い活動は大きな赤字になっていると思う。利用費が活動を狭めているのは事実である。
- 基本方針として、どこに重きを置くかを定めるのが基本計画の役割。重点を置く要素を定めてから、赤字をどう補うのかなどを考えていく必要がある。

■　アンケートの報告

- アンケートの目的を複合検討施設の利用について基礎的な情報を得ることに変更。文化会館と市民会館、その他の施設に分けて各居室の利用状況をまとめている。基礎的な分析になっているが、今後追って分析結果を報告したい。

■　今後のスケジュール

次　回（第４回）：10 月 11 日（火）13:30~@9 階会議室
次々回（第５回）：11 月 14 日（月）13:30~@2 階 21 会議室